

地震対策 – 耐震設計に用いる地震と東日本大震災の揺れとの比較 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.4

耐震設計の基準となる地震の揺れの評価では、地盤や建物をモデル化して揺れの伝わり方を計算しているが、東北地方太平洋沖地震の揺れをきちんと再現できるモデルになっているのか。

第20回ワーキング
(2022.2.21) で議論

ワーキングチーム検証結果

地震応答解析モデルによる解析結果と、東北地方太平洋沖地震の観測記録を比較し、**揺れの伝わり方の傾向は概ね整合していることを確認。**

ワーキングチーム検証結果 (抜粋)

○観測記録と解析結果の比較

- 2011年東北地方太平洋沖地震における観測記録の最大加速度と、耐震設計の基準となる地震動(基準地震動)による施設評価モデルの最大応答加速度を比較
- 地中においては、**観測記録と解析結果(Ss-D1)の揺れの伝わり方の傾向は概ね整合的。**上下方向の最大応答加速度については、解析結果の方が揺れが増幅する傾向であった。
- 建屋においては、**両者とも同様の増加傾向**を示している。
- 基準地震動9波のうち、Ss-D1は周期特性の偏りがないことから代表して比較しているが、Ss-D1以外の基準地震動Ssについても概ね同様の傾向を示している。

